

# 第四次地域管理経営計画書

## (最上村山森林計画区)

計画期間

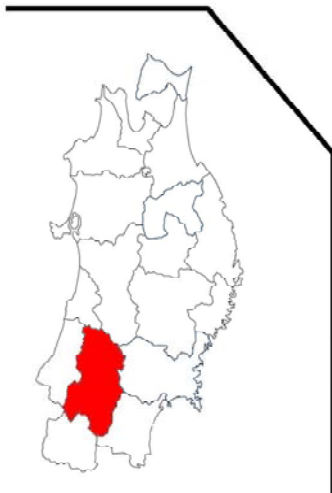
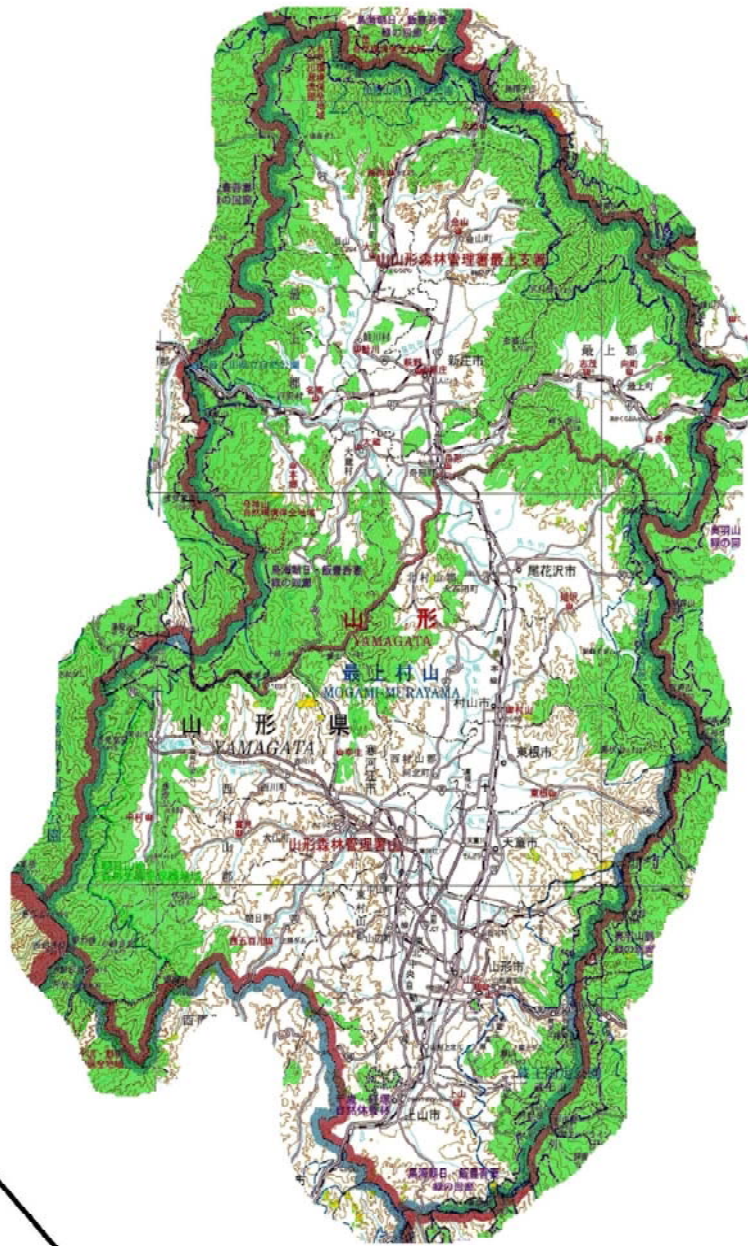
自	平成22年4月	1日
至	平成27年3月	31日

東北森林管理局

この地域管理経営計画書は、国有林野の管理経営に関する法律第6条の規定に基づき、東北森林管理局長が策定した最上村山森林計画区についての第四次計画である。

この計画の計画期間は、平成22年4月1日から平成27年3月31日までの5年間である。

# 最上村山森林計画区の位置図



	国有林
	官行造林

## 目 次

はじめに	1
1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項	2
(1) 国有林野の管理経営の基本方針	2
① 計画区の現況	2
② 計画区内の国有林野の現況	2
③ 持続可能な森林経営の実施方向	4
(2) 機能類型に応じた管理経営に関する事項	5
① 機能類型ごとの官営経営の方向	5
② 地域ごとの機能類型の方向	7
(3) 流域管理システムの推進に必要な事項	9
(4) 主要事業の実施に関する事項	10
① 伐採総量	11
② 更新総量	11
③ 保育総量	11
④ 林道の開設及び改良総量	11
(5) その他必要な事項	11
2 国有林野の維持及び保存に関する事項	12
(1) 巡視に関する事項	12
(2) 森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項	12
(3) 特に保護を図るべき森林に関する事項	13
(4) その他必要な事項	14
3 林産物の供給に関する事項	14
(1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項	14
(2) その他必要な事項	15
4 国有林野の活用に関する事項	15
(1) 国有林野の活用の推進方針	15
(2) 国有林野の活用の具体的手法	15
(3) その他必要な事項	15
5 国民の参加による森林の整備に関する事項	15
(1) 国民参加の森林に関する事項	15
(2) 分収林に関する事項	16
(3) その他必要な事項	16
6 その他国有林野の管理経営に関し必要な事項	17
(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項	17
(2) 地域の振興に関する事項	18
(3) その他必要な事項	18

## はじめに

国有林野事業は、将来にわたってその使命を十全に果たしていくため、国有林野を名実ともに「国民の森林」とするとの基本的な考え方の下に、平成10年度から抜本的な改革を集中的に推進してきたところであり、管理経営の方針を林産物の供給に重点を置いたものから公益的機能の維持増進を旨とするものに転換し、国有林野の適切かつ効率的な管理経営を進めてきたところである。

森林に対する国民の要請も国土の保全や水源のかん養に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等多様化してきており、特に地球温暖化の防止、生物多様性の保全については、国有林の期待が大きくなっている。

こうしたことを踏まえ、今後は、引き続き適切かつ効率的な管理経営に向けた取組を進めるとともに、「国有林野の管理経営に関する基本計画」に従い、林産物の供給や地域振興への寄与にも配慮しつつ、持続可能な森林経営及び開かれた「国民の森林」の実現に向けた取組を推進していくこととする。

本計画は、国有林野の管理経営に関する法律第6条の規定に基づいて、東北森林管理局長があらかじめ国民の意見を聴いた上で、管理経営基本計画に即し、森林法で定める国有林の森林整備・保全に関する計画である国有林の地域別の森林計画と調和して、今後5年間の最上村山森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的な事項を定めた計画である。

今後、最上村山森林計画区における国有林野の管理経営は、第三次地域管理経営計画の計画期間終了に伴い、平成22年4月1日を始期として策定した第四次計画に基づき、関係行政機関と連携を図りつつ、関係住民の理解と協力を得ながら適切に行うこととする。

## 1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

### (1) 国有林野の管理経営の基本方針

#### ① 計画区の概況

本計画の対象は、山形県の中央部・北東部に位置する最上村山森林計画区内の国有林野 183,987ha である。

当計画区は、北は丁岳、神室山及び雄勝峠などの山岳により秋田県と、東は小鐮山、御所山、熊野岳などの奥羽山脈により宮城県と接し、さらに南は白鷹山、置賜葉山などにより置賜森林計画区に接し、西は大朝日岳、月山などの出羽丘陵により庄内森林計画区に接している。

河川は、中央部を最上川が貫流しており、新庄盆地で西に湾曲しながら下流の庄内森林計画区に流れている。これに寒河江川、須川、丹生川、小国川、鮭川等の中小河川が流入している。

林況は、林地面積の約 76% がブナなどの広葉樹等が生育する天然林等である。人工林は約 24% で、里山地域を中心にスギ人工林が造成されており、資源の一層の充実が期待される。

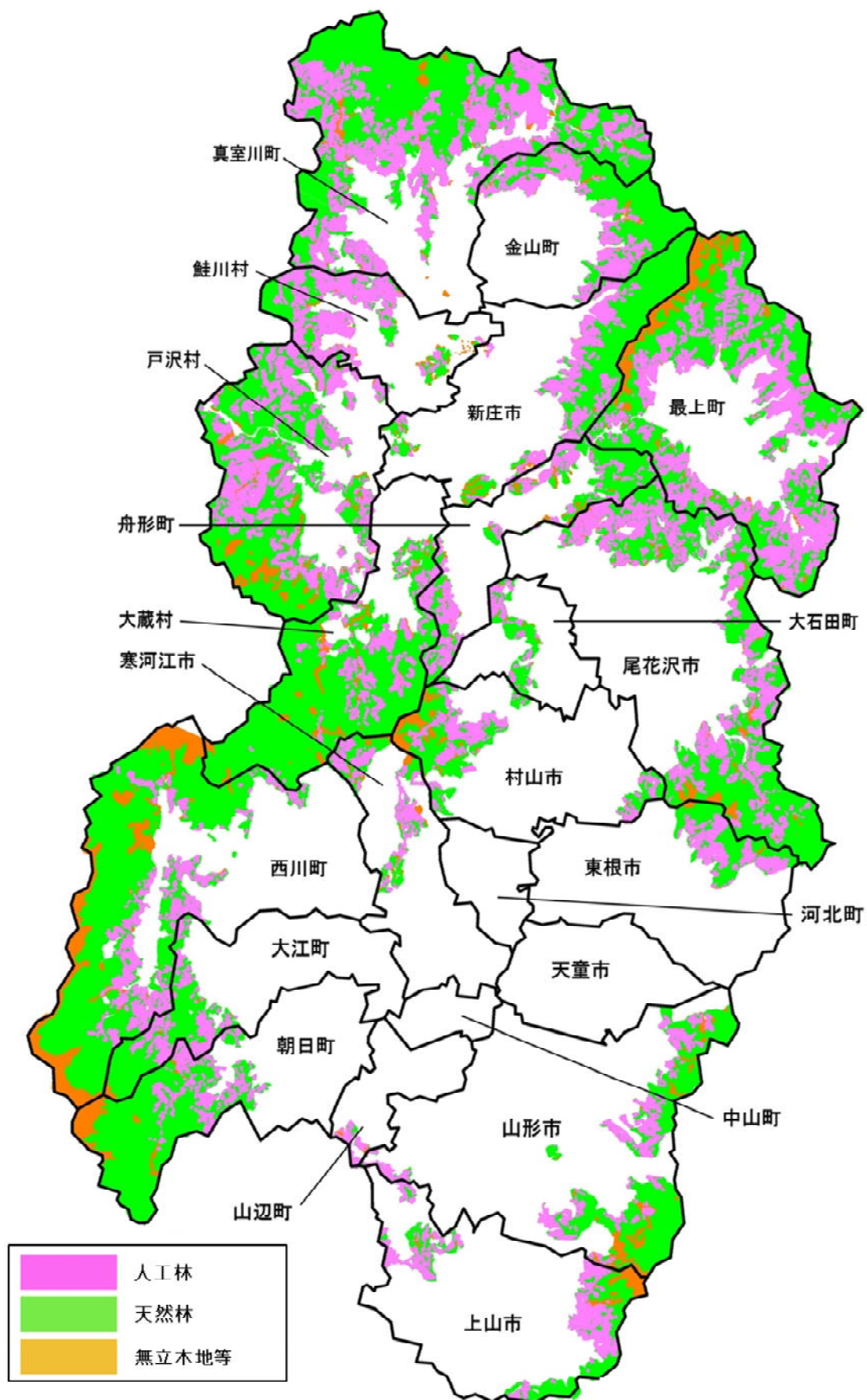
また、磐梯朝日国立公園・栗駒国定公園・蔵王国定公園をはじめとする豊かな自然環境が保全されている森林、優れた景観に恵まれ、森林レクリエーション、保健休養の場として多くの人々に利用されている。

#### ② 計画区内の国有林野の現況

当計画区の森林の現況（平成21年12月時点）としては、人工林を中心とする育成林が 41,935ha（育成単層林 40,889ha、育成複層林 1,046ha）、天然生林が 130,740ha となっており、主な樹種としては針葉樹ではスギ 6,575千m<sup>3</sup>、カラマツ 941千m<sup>3</sup>、アカマツ 268千m<sup>3</sup>、広葉樹ではブナ 6,095千m<sup>3</sup>、ナラ 949千m<sup>3</sup>となっている。また、林相別に見ると針葉樹林 40千ha、針広混交林 6千ha、広葉樹林 129千haとなっている。

人工林についてみると、齢級構成では間伐対象齢級である 4 齢級から 12 齢級が 8 割強と大半を占める一方、13 齢級以上の高齢級林分は約 1 割となっている。

図一 1 人天別分布図



### ③ 持続可能な森林経営の実施方向

国有林野の管理経営に当たっては、開かれた「国民の森林」の実現を図り、現世代とともに将来世代へ森林からの恵沢を伝えるため、機能類型区分や森林の適切な整備・保全等による持続可能な森林経営に取り組んでいくこととする。

また、持続可能な森林経営については、日本はモントリオールプロセスに参画しており、この中で国全体としての客観的に評価するための7基準（64指標）が示されている。

当計画区内の国有林野について、この基準を参考に取り組んでいる施策及び森林の取扱い方針を整理すると次のとおりとなる。

#### ア 生物多様性の保全

地域の特性に応じた多様な森林生態系を保全していくため、針広混交林等多様な林相の森林を整備及び保全していくとともに、貴重な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保護するほか、施業を行う場合でも適切な配慮を行う。

#### イ 森林生態系の生産力の維持

森林としての生長力を維持し健全な森林を整備していくため、間伐等の適切な実施と伐採後の更新確保による健全な森林の整備とともに、公益的機能の発揮と両立した木材の生産を行う。

#### ウ 森林生態系の健全性と活力の維持

外部環境から受ける影響から森林の劣化を防ぐため、森林病虫害や山火事等から森林を保全するとともに、被害を受けた森林の回復を行う。

#### エ 土壌及び水資源の保全と維持

降雨に伴う浸食等から森林を守るとともに、森林が育む水源のかん養のため、必要に応じ育成複層林施業や長伐期施業を推進するほか、山地災害により被害を受けた森林の整備復旧を行う。また、森林施業においても裸地化する期間の短縮や尾根筋や沢沿いでの森林の存置を行う。

#### オ 地球的炭素循環への森林の寄与の維持

地球温暖化防止に貢献するため、吸収源となる森林の健全性を維持するため育成林の整備を推進するとともに、天然生林の保全を行うほか、森林整備の円滑な推進と二酸化炭素の貯蔵庫として機能を維持するため、木材利用を推進する。

#### カ 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進

国民の森林に対する期待に応えるため、森林が有する多面的機能の効果的な発揮とともに、森林浴や森林ボランティア、環境教育等森林と人とのふれあいの確保のためのフィールドの提供等や森林施業に関する技術開発等に取り組む。

#### キ 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組

ア～カに記述した内容を着実に実行し「国民の森林」として開かれた管理経営を行



うため、国有林野に関連する法律に基づく各計画制度の適切な運用はもとより、管理経営の実施に当たっては、国民の意見を聴きながら進めるとともに、モニタリング等を通じて森林資源の状況を把握する。

## (2) 機能類型に応じた管理経営に関する事項

### ① 機能類型ごとの管理経営の方向

当計画区の特徴を活かし、森林に対する国民の要請が、国土の保全や水源のかん養に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等、公益的機能の発揮に重点を置きつつ、さらに多様化していることを踏まえ、林産物の供給や地域振興への寄与にも配慮しつつ、持続可能な森林経営及び開かれた「国民の森林」の実現に向けた取組を推進していくこととする。

具体的には、森林整備の積極的な推進を図りながら、国有林の地域別の森林計画に定める公益的機能別施業森林の区域との整合に留意しつつ、当計画区の国有林野を国土保全や水源のかん養を目的とする「国土保全林」、貴重な生態系の維持・保存や森林レクリエーション利用等を目的とする「森林と人との共生林」、及び木材を安定的かつ効率的に供給する「資源の循環利用林」の3つに分け、それぞれの目的に応じて次のような管理経営を行うこととする。

#### ア 国土保全林における管理経営の指針その他国土保全林に関する事項

国土保全林においては、山地災害による人命・施設の被害の防備、気象害による環境悪化の防備又は国民生活に必要な良質で安定した量の水の供給に係る機能を重点的に発揮させるべき国有林野について、それぞれの目的とする機能の維持増進を図るため、適切な間伐の実施や長伐期施業、育成複層林施業等の推進に努め、必要に応じて施設の整備を図る。

具体的には、国土保全林については、国土保全タイプと水源かん養タイプの2つに分けて取り扱うこととする。

また、前計画では、国土保全林126,643ha（国土保全タイプ37,750ha、水源かん養タイプ88,893ha）としていたが、今回の計画では、下表のとおりとしている。これは、前計画の期間中に森林と人との共生林（森林空間利用タイプ）としていたものについて、レクリエーションの森の活用予定が無くなったことに伴い国土保全林に見直ししたこと及び水源かん養保安林の指定を拡大したことに伴い、資源の循環利用林から国土保全林に見直ししたことによるものである。

#### (ア) 国土保全タイプ

国土保全タイプの国有林野については、保全対象や当該森林の現況等を踏まえ、根系や下層植生の発達が良好な森林、樹高が高く遮蔽能力が高い森林等に誘導し又はこれを維持するために必要な管理経営を行うものとする。

#### (イ) 水源かん養タイプ

水源かん養タイプの国有林野については、流域の特性や当該森林の現況等を踏まえ、根系や下層植生の発達が良好な森林、多様な樹種で構成される森林等に誘導し

又はこれを維持するために必要な管理経営を行うものとする。

水土保持林の面積

(単位：ha)

区分	国土保全タイプ	水源かん養タイプ	計
面積	38,012	89,576	127,588

注) 四捨五入により計が一致しない場合がある。

#### イ 森林と人との共生林における管理経営の指針とその他森林と人との共生林に関する事項

森林と人との共生林においては、貴重な生態系の維持又は国民と森林とのふれあいの場としての利用等に係る機能を重点的に発揮させるべき国有林野について、それぞれの目的とする機能の維持増進を図るため、保護林の保全・管理等に努めるほか、景観、風致等に優れた森林の維持・造成等に努め、必要に応じて施設の整備を図る。

具体的には、森林と人との共生林については、自然維持タイプと森林空間利用タイプの2つに分けて取り扱うこととする。

また、前計画では、森林と人との共生林53,693ha(自然維持タイプ35,728ha、森林空間利用タイプ17,964ha)としていたが、今回の計画では、下表のとおりとしている。これは、前計画期間中に森林と人との共生林(森林空間利用タイプ)としていたものについて、レクリエーションの森の活用予定が無くなり水土保持林に見直したことによるものである。

##### (ア) 自然維持タイプ

自然維持タイプの国有林野については、自然の推移に委ねることを原則として、保護を図るべき森林生態系を構成する野生動植物等の特性に応じ、保全すべき自然環境の維持・形成に必要な管理経営を行うこととする。

なお、貴重な野生動植物の生息・生育に資するために必要な森林、遺伝資源の保存に必要な森林等については、「保護林」に設定し、適切に保全を図ることとする。

##### (イ) 森林空間利用タイプ

森林空間利用タイプの国有林野については、保健、文化、教育等様々な利用の形態に応じた管理経営を行うものとし、具体的には、景観の向上やレクリエーション利用を考慮した森林の整備を行い、必要に応じて遊歩道等の施設の整備を行うこととする。

なお、国民の保健・文化的利用に供するための施設又は森林の整備を積極的に行うことが適当と認められる国有林野については、「レクリエーションの森」として選定する。既存の「レクリエーションの森」については、施設の老朽化や利用者のニーズ等の変化を踏まえ、リフレッシュ対策を実施していくとともに、利用が著しく低位にあるものや今後の維持管理等が見通し難いものについては、地元自治体をはじめ幅広い地域関係者等の意見を充分勘案し、必要に応じて廃止を含めた見直しを図ることとする。

森林と人との共生林の面積

(単位：ha)

区 分	自然維持タイプ		森林空間利用タイプ		合 計
		うち、保護林		うち、レクリエーションの森	
面 積	35,727	20,102	17,534	7,725	53,261

注) 四捨五入により計が一致しない場合がある。

ウ 資源の循環利用林における管理経営の指針その他資源の循環利用林に関する事項

資源の循環利用林については、林業等の生産活動の場の提供に係る機能を発揮させるべき国有林野について、森林の健全性を維持しつつ、環境に対する負荷が少ない素材である木材の効率的な生産、多様化する木材需要に応じた林木の育成に努め、木材資源の充実等を図る。

資源の循環利用林については、公益的機能の発揮に留意しつつ、生産目標に応じた木材の効率的な生産等それぞれの利用形態に応じた管理経営を行うものとする。

また、前計画では、資源の循環利用林3,793haとしていたが、今回の計画では、下表のとおりとする。これは、前計画期間中に水源かん養保安林の指定を拡大したことに伴い、機能類型を資源の循環利用林から水土保持林（水源かん養タイプ）に変更したことによる面積の減である。

資源の循環利用林の面積

(単位：ha)

区 分	林業生産活動の対象	その他生産活動の対象	計
面 積	3,120	18	3,138

注) 四捨五入により計が一致しない場合がある。

② 地域ごとの機能類型の方向

当計画区は、次の地区に大別され、地区ごとに重点的に行うべき管理経営は次のとおりである。

ア 寒河江川、朝日川地区（山形署1～147、最上支署2,348～2,364林班）

当地区は、葉山、月山から朝日山地に至る地域で、標高1,500m以上の山々が連なり優れた自然景観を有している。一帯は全国有数の豪雪地帯でもあり、稜線部にはブナを主体とした天然林や多雪地に特有の高山植物等が広がる。

また、この一帯は、磐梯朝日国立公園や我が国最大規模のブナ林等、原生的な自然状態が維持されていることから「朝日山地森林生態系保護地域」に設定しており、自然環境の保全、動植物の保護、遺伝資源の保存等の機能の発揮が期待されるため、主に森林と人との共生林に区分して管理経営を行うこととする。

イ 蔵王、千歳、経塚、白鷹地区（山形署201～268林班）

当地区は、蔵王国定公園の中核を占める地域で、宮城県境の峰部周辺は、蔵王植物群落保護林等が指定されており、高山植生がみられる。

蔵王中央高原から坊平高原までは、風景林、自然観察教育林等の指定とともに、スキー場、キャンプ場等の森林レクリエーション施設が整備されており、自然環境の保全、風致景観の維持及び保健休養の場の提供等の機能の発揮が期待されるため、主に森林と人との共生林に区分して管理経営を行うこととする。

ウ 大高根、寺内、翁山、御所山地区（山形署1,001～1,121林班）

当地区は、奥羽山脈沿いに、翁峠から半森山を経て御所山に至る地域で、山腹の上部にはブナを主体とした広葉樹天然林が多くみられる。中腹から下部には、スギ、カラマツの人工林が造成されている。

当地区の大部分は、水源かん養保安林、御所山県立自然公園に指定されている。

また、最上流部は、保健保安林、鳥獣保護区が指定され、水源かん養機能、保健文化機能の発揮が期待されるため、主に水土保持林又は森林と人との共生林に区分して管理経営を行うこととする。

エ 真室川、金山川地区（最上支署1～167林班）

当地区は、鮭川、真室川、金山川の上流域に位置し、上流部はブナを主体とした天然林が広がり、優れた自然景観を有しており、さらに金山川の上流域の一部は栗駒国定公園、真室川の上流域の一部や鮭川の支流である小又川の上流域の一部は加無山県立自然公園に指定されている。また、鮭川の上流には高坂ダム、金山川の上流には神室ダムがあり、水源かん養機能、保健文化機能の発揮が期待されており、主に水土保持林又は森林と人の共生林に区分して管理経営を行うこととする。

各流域の中流から下流域にかけては、スギ人工林が広く造成されており、特に真室川上流部の前森山を中心とした造林地は、高齢級のスギ人工林団地となっており、水源かん養機能の発揮とともに、木材生産機能が発揮が期待されている。

オ 向町地区（最上支署1,001～1,080林班）

当地区は、小国川の上流域に位置し、奥羽山地の中央部にできたカルデラの地形の特徴から、盆地周辺部の急峻な山岳地と盆地内部のなだらかな丘陵地に分けられる。

山岳地は、ブナを主体とした天然林がみられる。盆地中央の丘陵地と山岳部の中間地帯は、生育良好なスギ人工林が広く分布している。当地域の大半は水源かん養保安林に指定されており、一部は栗駒国定公園、御所山県立自然公園、風景林等に指定され、水源かん養機能の発揮とともに、自然環境の保全、保健休養の場の提供等の機能の発揮が期待されるため、主として水土保持林又は森林と人の共生林に区分して管理経営を行うこととする。

カ 鮭川地区

（最上支署2,001～2,035、2,037～2,043、2,171～2,183、2,185～2,197林班）

当地区は、最上川右岸、出羽山地に位置し、山腹上部はブナを主体として広葉樹天然林がみられる。地区の大半が水源かん養保安林に指定されており、主として水土保持

全林に区分して管理経営を行うこととする。

また、最上川沿いは、最上川県立自然公園に指定されており、保健文化機能等の発揮が期待されるため、主として森林と人との共生林に区分して管理経営を行うこととする。

#### キ 泉田川、新田川、小国川地区

(最上支署2,044～2,089、2,091～2,093、2,095～2,115、2,166～2,170林班)

当地区は、泉田川、新田川の上流域及び小国川流域に位置し、ブナ、ミズナラ等を主体とした広葉樹林がみられる。泉田川上流域の一部は栗駒国定公園、鳥獣保護区等に指定されており、自然環境の保全、保健文化機能等の発揮が期待されるため、主に森林と人との共生林に区分して管理経営を行うこととする。

#### ク 銅山川、角川地区 (最上支署2,116～2,164、2,198～2,260林班)

当地区は、最上川左岸、銅山川、角川流域に位置し、ブナ、ミズナラ等を主体とした広葉樹林がみられる。銅山川の上流部には、急峻な地形の峰筋にヒメコマツ、ネズコ等の生育がみられる。

地区の大半は水源かん養保安林に指定されており、また、地すべり地域も多く、水源かん養、山地災害防止機能の発揮が期待されるため、主に水土保持林に区分して管理経営を行うこととする。

### (3) 流域管理システムの推進に必要な事項

国有林野の管理経営に当たっては、流域を単位として民有林・国有林が連携して森林の整備等を行う流域管理システムの下で、流域の課題やニーズの的確な把握、林業事業体の育成、下流域との連携等について取り組んでいくことが必要である。

このため、流域管理システムの推進に向けて、引き続き、国有林野事業流域管理推進アクションプログラムの実施等により、先導的・積極的に取り組むこととする。

#### ① 流域ニーズの的確な把握

最上公益の森づくり協議会、村山公益の森づくり協議会、林業関係機関・団体等との会合等において、列状間伐の推進、地域産木材の利用促進、生産コストの低減につながる低コスト路網の整備、山地災害の情報等、森林の整備・保全の課題や要請を的確に把握し、流域の特色ある事業運営の推進に努める。

#### ② 国有林の情報、技術、フィールドの提供等

磐梯朝日国立公園、蔵王国定公園、栗駒国定公園、千歳・経塚自然休養林等の森林レクリエーション、保健休養の場の提供、また、前森山人工林施業モデル林、間伐指標林等の各種森林情報をはじめとする展示林的なフィールドを活用して、国有林野における管理経営や森林整備技術についての情報を積極的に提供する。

また、高性能林業機械等の利用や列状間伐、計画的な路網の整備等による効率的・効果的な間伐に取り組むとともに、技術指導や研修に必要なフィールドを提供し、山形県、山形県林業労働力確保支援センター等と連携した森林施業技術検討会の実施等により林

業技術の向上等に努める。

③ 民有林・国有林一体となった取組

地域材の銘柄化や森林吸収源対策のための間伐の推進に向け、共同施業団地の設定等により、木材の安定供給に加え、土木工事等への木材利用、木質バイオマスエネルギーへの利用等を図るとともに、間伐、路網の整備など、民・国が一体となった取組の推進に努めることとする。

また、森林の適切な保全管理、林産物の生産コストの低減、作業環境の向上等に資するため、民有林関係者との情報交換を密に行うことにより、民有林林道計画との調整を図り、合理的な路網整備に努めることとする。

④ 林業事業体の育成

森林整備を行う事業体に対しては、事業の早期発注、年間の事業発注見通しの情報提供など、計画的な発注に努めるとともに、安定的な雇用の確保にも資することとする。

また、発注者の立場からの技術指導、労働安全衛生の確保についての指導等に努め、森林吸収源対策等の森林整備を担う林業事業体の育成を図ることとする。

⑤ 下流域との連携

「蔵王緑の騎士団」等遊々の森、千歳山等における小中学生等に対する植樹体験や森林教室等の各種活動の支援、蔵王国定公園、森の巨人たち百選に選ばれた「女甕の大カツラ」等における森林浴や自然観察会による森林とのふれあいの場の提供、グリーン・サポート・スタッフによる入山者へのマナー指導・啓発活動等を通じて、下流域住民、利水者等に対して森林の働き、森林・林業の役割等の情報を分かりやすく提供し、森林・林業に対する理解の醸成に努めるとともに、下流域関係者自ら行う水源林整備等のフィールド及び技術を提供する。

#### (4) 主要事業の実施に関する事項

伐採、造林等の実施行為は民間委託により勧めており、今後も計画的な事業の発注に努めることとする。

間伐については、地球温暖化防止に係る森林吸収源対策を着実に実行するため、実施箇所の団地化や低コスト路網整備、列状間伐の実施・拡大、収穫調査の簡素化等を積極的に行い、トータルコストの縮減に努めることとする。

当計画期間における伐採、更新、保育、林道の開設及び改良の総量は以下のとおりである。

① 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>)

区 分	主 伐	間 伐	計
計	2 3 2, 1 9 5	7 5 5, 4 0 5 (12, 115)	1, 0 1 7, 2 9 0 (12, 115)

注1) ( ) は、間伐面積 (単位：ha) である。

注2) 四捨五入により計が一致しない場合がある。

② 更新総量

(単位：ha)

区 分	人 工 造 林	天 然 更 新	計
計	4 0 5	3 2 3	7 2 9

注) 四捨五入により計が一致しない場合がある。

③ 保育総量

(単位：ha)

区 分	下 刈	つる切り・除伐	計
計	1, 7 8 0	1, 5 2 8	3, 3 0 8

注) 四捨五入により計が一致しない場合がある。

④ 林道の開設及び改良総量

区 分	開 設		改 良	
	路線数	延長量 (m)	箇所数	延長量 (m)
計	1 7	3 1, 1 0 0		

注) 四捨五入により計が一致しない場合がある。

(5) その他必要な事項

① 地球温暖化防止対策の推進

国産材の利用を一体的に推進する森林・木質資源を活用した新たな循環型システムの普及・啓発に取り組むこととし、特に間伐を積極的かつ着実に実施することとする。

また、林道工事や治山工事での間伐材の利用等、国有林野事業として木材の利用促進に取り組むとともに、木材利用についての国民への啓発に努めることとする。

## ② 生物多様性の保全

国有林野が奥地脊梁山脈から里山まで所在し、生物多様性の保全上重要な役割を担っていることを考慮し、原始的な天然林や貴重な野生動植物が生息・生育する森林について厳格な保全・管理を行う保護林において、引き続き、適切な保全・管理を行うこととする。

また、それ以外の森林においても、適切な間伐の実施、針広混交林化、複層林化、長伐期化や里山等の積極的な整備など、地域の森林の現況に基づき、多様で健全な森林の整備・保全を推進することにより生物多様性の保全に寄与することとする。

さらに、自然災害等により劣化した森林の再生・復元、野生鳥獣との共存に向けた森林整備に取り組むほか、地域やボランティア、NPO等と協働・連携した森林管理を推進することとする。

## 2 国有林野の維持及び保存に関する事項

### (1) 巡視に関する事項

#### ① 山火事防止等の森林保全巡視

森林巡視を着実に実施することにより、山火事及び廃棄物の不法投棄の未然防止、森林病虫獣害の早期発見・防除、高山植物の保護、保安林の適切な管理等の保全管理に努める。また、保全管理の実施に当たっては、地元住民、地元公共団体、ボランティア、NPO等との連携を図り、入林者への山火事防止や不法投棄防止意識の啓発等に努めることとする。

併せて、巡視活動の展開により風水害による山地崩壊、倒木、林道等の施設の災害防止、あるいは早期発見に努めることとする。

#### ② 境界の保全管理

境界の適切な保全管理は、国有林野の管理経営の基礎となるものであることから、境界識類の確認、境界の巡視、不明標の復元を計画的に行い、境界の保全管理に努めることとする。

また、境界の侵害を受けている箇所については、当事者と疎通を図り早期解決に努めることとする。

特に、都市近郊に所在する国有林野については、権限が未設定での占有使用やゴミの不法投棄等が生ずるおそれがあることから、随時、経常業務の遂行と並行して保全巡視に努めることとする。

### (2) 森林病害虫の駆除又はそのまん延の防止に関する事項

日常の森林保全巡視及び県、市町村等からの情報を得ながら森林病害虫の監視に努める。

なお、松くい虫被害については、森林病害虫等防除法に基づく高度公益機能森林、被害拡大防止森林の区域指定及び防除計画等に基づき、伐倒駆除等により被害のまん延防止に努めるほか、近年、拡大しているカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害についても、県、市町村との連絡を密にし、民有林と一体となった効果的な対策を行うよう努めることとする。



とする。

### (3) 特に保護を図るべき森林に関する事項

#### ① 保護林

当計画区は、低地から高山帯まで広範な植生帯が存在し、亜高山帯針葉樹林を欠き低木林が発達する豪雪地帯特有の植生が見られる「朝日山地森林生態系保護地域」、船形山を中心とする広域的な自然植生域で主体は裏日本型ブナ林の特徴を持つ「船形山植物群落保護林」等を含め11箇所の保護林を設定しており、原生的な自然環境や貴重な野生動植物が生息・生育するなど貴重な森林生態系を有する森林が多く、環境保全や生物多様性の確保の観点からも、適切に保護を図っていくとともに、大学や試験研究機関に対して積極的な情報提供に努め、学術研究フィールドとして提供することとする。

また、入林者の影響等による植生荒廃の防止やその回復を図るため、地域の関係者等と調整を図りながら必要な措置を講ずるものとする。

種 類	箇所数	面積 (ha)
森林生態系保護地域	1	1 5,1 2 2
森林生物遺伝資源保存林	—	—
林木遺伝資源保存林	2	2 4
植物群落保護林	7	4,9 5 3
特定動物生息地保護林	1	4
特定地理等保護林	—	—
郷土の森	—	—
総 数	1 1	2 0,1 0 2

#### ② 緑の回廊

「奥羽山脈緑の回廊」は、奥羽山脈沿いに八甲田山周辺から蔵王周辺まで、約2kmの幅で延長約400kmにわたって設定しており、このうち当計画区では約85kmを設定している。

「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」は、関東森林管理局と連携し、山形県を一巡する形で奥羽山脈緑の回廊の神室山から鳥海山、月山、朝日山地、飯豊山、吾妻山を経由し、蔵王山に至るまで約2kmの幅で延長約260kmにわたって設定しており、このうち当計画区では約160kmを設定している。

緑の回廊においては、将来的に多様な樹種や複数の樹冠層からなる天然林を指向することとし、照度及び採餌空間の確保等、野生動植物の生息・生育環境の整備を図る観点から、今後とも針広混交林に誘導するための抜き伐り等に努めるとともに、モニタリング調査を実施し、民有林関係者とも連携しつつ、質的充実に努めることとする。

名 称	延長 (km)	面積 (ha)
奥羽山脈	8 5	1 5,7 6 9
鳥海朝日・飯豊吾妻	1 6 0	1 9,1 6 7
総 数	2 4 5	3 4,9 3 7

注) 数値は、当計画区に係るもののみである。

#### (4) その他必要な事項

##### ① 水辺の整備

水質の保全や野生動植物の生息・生育環境の整備に資する観点から、防災面にも配慮しつつ、溪流沿い等の水辺に保護樹帯等を効果的に配置していくこととする。

##### ② 希少な野生動植物の保護

イヌワシ、クマタカ等の希少な野生生物については、必要に応じて専門家等の協力を得ながら、森林の各種機能の発揮との調整を図りつつ、その保護に努めることとする。

##### ③ ニホンジカ、カモシカ等との共生及び被害対策

ニホンジカ、カモシカ、等との共生及び被害対策については、森林施業を計画的に実施していく中で、野生動物の移動経路等の生息環境を維持していくよう配慮するとともに、日常の森林保全巡視及び県・市町村等からの情報を得ながら森林に対する獣害の監視に努めることとする。

##### ④ その他

「森林と人との共生林」については、地域住民、ボランティア、NPO等とも連携を図りながら、生物多様性保全の視点も踏まえつつ、希少種の保護や移入種の侵入防止等に努めることとする。

### 3 林産物の供給に関する事項

#### (1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項

当計画区においては、利用可能なスギ等の人工林の資源が充実しつつある状況を踏まえ、主伐・間伐を通じて生産される木材の安定的な供給に努めることとする。特に、これまで利用が低位であった曲がり等を含む間伐材については、合板や集成材、チップ材料等の原料としての利用が拡大していることから、その需要者等へ安定的に供給するよう努める。

森林整備により搬出される間伐材等の販売については、高付加価値を期待できる高品質材等の供給とあわせ、素材（丸太）販売により実施する。また、間伐材の利用促進に当たっては、列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた高効率・低コストな作業システムの定着を図りつつ、素材（丸太）生産を行うものとする。

また、曲がり等を含む間伐材の販売については、需要先へ直送する販売協定により新規需要開拓と安定的な供給を図ることとし、林業・木材産業の活性化を図り、併せて収入の確保にも資することとする。

## (2) その他必要な事項

公共関連工事や施設での木材の利用を進めるため、治山・林道工事等において、木材の特質を考慮しつつ法面保護工、治山ダム等に間伐材等を積極的に利用するとともに、庁舎等施設の新改築する場合は木造化・木質化を積極的に推進するなど、木材の利用促進に取り組むこととする。

また、地方公共団体等の関係機関と間伐材等木材需要についての情報交換を進めるとともに、林業・木材産業関係者と連携しつつ、木材利用の推進に寄与することとする。

## 4 国有林野の活用に関する事項

### (1) 国有林野の活用の推進方針

国有林野の活用に当たっては、当計画区の自然的、社会・経済的な特色を踏まえつつ、住民の意向等を考慮して農林業の構造改善のための活用、公用・公共用・公益事業の用に供する活用、都市と農山漁村の交流の促進、公衆の保健のための活用等地域における産業の振興や住民の福祉の向上に資するよう推進することとする。

### (2) 国有林野の活用の具体的手法

- ① 国有林野の活用については、公益的機能の発揮、木材生産機能の確保等との調整を図りつつ、取り組む。
- ② 関係する県及び市町村との連携を密にし、公用・公共用等のための活用に資する。
- ③ 不要地、余剰地については、林野・土地売払い情報公開窓口及びインターネットを活用し、広く情報を公開し、情報の提供と需要探索に努める。

### (3) その他必要な事項

特になし。

## 5 国民の参加による森林の整備に関する事項

### (1) 国民参加の森林に関する事項

国民が自主的に行う森林整備活動を推進するため、国民参加の森林として設定する「ふれあいの森」として、神室山系の自然を守る会と「一杯森ふれあいの森」、甑山探究会と

「こしきの森」を設定していることから、引き続き、これらの森林づくりの活動に対して、必要な助言、技術指導等の支援を行うとともに、地方公共団体、緑化関係団体等と連携し、円滑な活動の実施に努めることとする。

その他、ボランティア団体等が行う自主的な森林整備や保全活動についての要請に対応したフィールドの提供や協定の締結等、多様な取組に努めることとする。

#### ふれあいの森

名 称 (市町村)	位 置 (林小班)	面 積 (ha)
一杯森ふれあいの森 (新庄市)	山形森林管理署最上支署 (2064に4)	1
	(2064に5)	1
こしきの森 (真室川町)	山形森林管理署最上支署 (105り3)	1

## (2) 分収林に関する事項

国有林野の所在する地域の振興と国民参加による森林整備、緑化思想の普及のため、地域のみならず都市部の住民にも広く働きかけ、国民自らが森林資源の造成や地球環境の保全・形成に参画できる制度として推進することとする。

特に、企業や団体などに対しては、業種の枠にとらわれない社会貢献活動の一環として、森林資源の造成や環境保全に資する森林育成に参画を求め、分収林事業を積極的に推進することとする。

## (3) その他必要な事項

### ① 森林環境教育の推進

学校、地方公共団体、企業、ボランティア、NPO、地域の森林所有者や森林組合等の民有林関係者等、多様な主体と連携しつつ森林環境教育の推進を図ることとし、学校等が国有林野で体験活動等を実施するための「遊々の森」や学校分収造林の活用、森林管理局・森林管理署等による林業体験や森林教室等の体験活動、森林の有する多面的な機能に関する普及啓発の実施、指導者の派遣や紹介、森林環境教育に適したフィールドの情報提供等の取組を推進することとする。

なお、国有林野を活用し体験活動を実施する「遊々の森」として、「塩根川学校の森」、「蔵王緑の騎士団の森」など5箇所を設定していることから、引き続き、フィールド及び情報を提供することとする。

その際、森林管理署に設置した森林・林業・木材に関する相談窓口である「緑づくり支援窓口」の機能充実に努め、教職員やボランティアのリーダー等に対する普及啓発や技術指導、森林環境教育のプログラムや教材の提供、波及効果が期待される取組を積極

的に推進するとともに、農山漁村における体験活動とも連携した取組を推進することとする。

② 森林の整備・保全等への国民参加

NPO等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供や必要な技術指導を行うなど、国民による国有林野の積極的な利用を推進することとし、森林整備や保全活動の要請に対応したNPO等と森林管理署等との協定の締結等、多様な取組に努めるものとする。

③ 地域住民や関係機関と連携した取組

山形県、市町村、山形県林業労働力確保支援センター、林業関係団体等と連携し、低コスト作業路及び列状間伐の推進、ナラ枯れ被害地に対する防除体制の確立等、民有林と一体となった取組に努めるものとする。

また、地域における課題を取り上げる地域発案システムにおいて、管内で関心が高まっている事項を取り上げ、地域住民や関係機関が参加して意見交換をする場を設け、課題の解決策を検討する。

④ 地域に根ざした自主的な取組の推進

「国民の森林」の実現に向けて、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営や地域振興への寄与等の一層の推進を図るため、森林管理署が地域の特性を踏まえた自主的な取組を提案し、地域住民、地方公共団体、ボランティア、NPO等と連携しつつ推進することとする。

また、地域で開かれる森林環境教育活動への協力等を通じ、森林・林業に関する情報・サービスの提供に努めるほか、インターネット等各種メディアを活用し、幅広い情報の発信を行うこととする。

⑤ 双方向の情報受発信

国有林モニターの活用等により、国有林野事業の活動全般について国民の意見を聴くなど、国民と国有林との双方向の情報・意見の交換を図ることにより、国民の要望の的確な把握や、これを反映した管理経営の推進等の対話型の取組を進め、国有林野事業に対する幅広い理解と支援を得るよう努めることとする。

⑥ モデルプロジェクトの推進

朝日山地森林生態系保護地域とそれに接続する鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊等を主なエリアとして、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターが中心となり、NPO等と協力した森林生態系ネットワークの保全再生をモデル的に実施することとする。

## 6 その他国有林野の管理経営に関し必要な事項

### (1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項

当計画区内の国有林野を高性能林業機械の研修用、大学や試験研究機関等の学術研究用

のフィールドとして提供するとともに、施業指標林等を活用し技術交流を図るなど、民有林との連携強化に努めることとする。

山形県研究機関等と連携し、ナラ枯れ被害地の推移等を把握する試験地の設定、面的防除の実証試験及び事業に取り組むこととする。

また、低コスト作業システムに関する研修会等を実施することとする。

## (2) 地域の振興に関する事項

森林の整備や林産物の販売、国有林野の活用、森林空間の総合利用など、国有林野の諸活動と国有林野の多様な利活用を通じて、地域産業の振興、住民の福祉の向上等に寄与するよう努めることとする。

具体的には、蔵王坊平野外スポーツ地域、千歳・経塚自然休養林等における環境整備等により、森林レクリエーションや森林とのふれあいの場として利用促進を図ることで地域振興に寄与する。

また、最上地域は林業・木材産業が盛んな地域であり、安定的な森林整備の実施と生産材の販売を通じて、地域産業の振興を図る。

## (3) その他必要な事項

特になし。